

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 小浜 正子

研究課題		中華人民共和国成立後の家族観の変化に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>中国の伝統社会における家族は、強い父系制で「男女有別」の性別役割分業を基本とするものであった。しかし中国近代における家族改革は、こうした家族を「封建家族」として中国の停滞の根源として改革を試みた。20世紀前半には、その変化は都市の家族においてしか見られなかったが、中華人民共和国の成立後、展開された婚姻制度の改革と、女性の社会労働への全面的な参加は中国社会のジェンダー秩序に大きな変動をもたらしたが、女性の社会労働・家事労働の評価は、時々の政策によって変動するものであった。さらに「一人っ子政策」の展開は父系家族の再生産を不可能とした。本研究は、このような中華人民共和国の政策の変化の下で、中国社会の家族観がどのように変化したかを時期ごとに分析しようとするものであり、中国社会のジェンダー秩序の変容の複雑な様相を多面的に考察するひとつの基礎をなすものである。</p>
	研究の結果	<p>現代中国の家族観について、とくに「一人っ子政策」終了後の状況を、同政策の展開期との連続と変化に注目して考察するためのフィールド調査を行い、以前に実施したフィールド調査の結果と比較しつつ初歩的な考察を行った。また、現代中国社会のジェンダー構造の諸側面に関する研究を進め、家族観との関連を考察した。調査の結果、「一人っ子政策」終了後に第二子を希望するカップルは出現しているが、その割合は限られており、以前のような父系家族の再生産への執着は薄らいでいると考えられる。</p>
	研究の考察・反省	<p>現代中国の家族観が「多子・男子」を望む伝統社会のそれから大きく変化しているということは、本研究からも明らかである。その要因について、社会経済の発展・変化の影響と、計画出産政策の強力な実施によるものとの両者が指摘されており、どちらが重要か、どのように影響するのかについてさまざまな意見があった。本研究では、両者の家族観の変化への影響のあり方についていまだ具体的な考察が深められておらず、この点は今後の課題としてさらに研究を深めたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>[学会発表] ・比較家族史学会第63回春季研究大会シンポジウム「人口政策」、「中国の人口政策」、2018年6月17日、於：岡山大学。</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>[研究成果物] ・「高校歴史教育改革とジェンダー主流化」『ジェンダー史学』第14号（特集：ジェンダー史が拓く歴史教育—ジェンダー視点は歴史的思考力をどう鍛えるか?）、2018年10月、59-68頁。 ・「中国研究のジェンダー主流化へ向けて」『研究中国』第7号（通巻127号）、2018年10月、23-28頁。</p>	